

平成20年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学 理工学部

評価委員会

平成21年11月

## 目次

平成20年度教員個人評価について.....	1
1. 教員個人評価の実施状況.....	2
1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など.....	2
1.2. 教員個人評価の実施概要.....	2
1.2.1. 評価組織.....	2
理工学部評価委員会ならびに理工学部個人評価実施委員会.....	2
1.2.2 実施経緯、内容、方法等.....	2
1.2.2. 添付資料.....	5
2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員） が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3. 評価領域別の集計及び分析.....	7
3.1. 教育の領域.....	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項.....	7
3.1.2. 教育改善に関する事項.....	9
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項.....	16
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	19
3.1.5. 学生の受賞等.....	20
3.2. 研究の領域.....	22
3.2.1. 著書、論文等の発表実績.....	22
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績.....	23
3.2.3. 受賞等の実績.....	25
3.3. 国際・社会貢献の領域.....	27
3.3.1. 国際交流実績.....	27
3.3.2. 社会貢献実績.....	28
3.4. 組織運営の領域.....	32
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	34
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	34
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	36
4.3. 評価委員からのコメント.....	43

平成21年度理工学部評価委員会委員名簿

## 平成20年度教員個人評価について

平成20年度の理工学部における教員個人評価の分析・集計が取りまとめられましたのでご報告いたします。

各教員は、4つの評価領域である教育、研究、国際交流・社会貢献及び組織運営の領域について自己点検・評価を行い、それぞれ5段階の評価点ならびに達成率を記入しています。そして、総合評価を5段階の評価点で記入し、学部長に提出しました。個人評価実施委員会は、各教員から提出された個人目標申告書、教員報告書(理工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書(推奨様式))及び自己点検・評価書に基づいて、各自が設けた目標の達成に向けた活動という観点から審査・評価し、学科内の総評と共に各教員にフィードバックしました。個人評価実施委員のコメントによれば、「・・・している姿がうかがえる」、「・・・への取り組みが盛んになった印象がある」、「教員の日々の研鑽により導かれた結果」、「・・・継続的に活発な」、「・・・若い教員の間で活性化が進んできた」などと、積極的かつ活発な活動を評価されている一方で、「・・・が期待される」、「一層の強化が必要である」といったように、現状に満足せず、更なる改善を促す意見があることは、理工学部で実施している教員個人評価が有効に機能している表れとみることができます。

本年度の教員個人評価は、試行を含めると5回目であり、教員の多くは回を重ねるにつれて妥当な自己点検・評価を行っていると思われるが、本評価が教員自身のための活性化に「真に」寄与していることの検証、そして必要であれば見直しを検討する時期に差し掛かっています。本報告書は学科毎に集計された教員の活動実績及び自己評価の結果を理工学部として取りまとめているので、学科の枠を超えた教員の教育研究及び自己点検・評価の姿を俯瞰することができます。同時に各教員の活動の改善点も見出すこともできますので、本報告書を用いて各教員が継続的に自己研鑽ならび活性化に勤められることを望みます。

理工学部長 林 田 行 雄

## 1. 教員個人評価の実施状況

### 1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など

理工学部7学科と大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授、准教授、講師、助教）に対して、別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し、全員から回答を得た（回答率100%）。（平成21.3.31現在）

学 科	職 種	対象教員数	実施率(%)
数理学科	教 授	7	100
	准教授 (講師を含む)	4	100
物理科学科	教 授	8	100
	准教授	7	100
知能情報システム学科	教 授	6	100
	准教授 (講師を含む)	6	100
	助 教	4	100
機能物質化学科	教 授	13	100
	准教授	11	100
	助 教	5	100
機械システム工学科	教 授	9	100
	准教授 (講師を含む)	10	100
	助 教	5	100
電気電子工学科	教 授	8	100
	准教授 (講師を含む)	11	100
	助 教	3	100
都市工学科	教 授	10	100
	准教授 (講師を含む)	9	100
	助 教	4	100
理工学部 (合計)	教 授	61	100
	准教授 (講師を含む)	58	100
	助 教	21	100

(\*) は現員人数

### 1.2. 教員個人評価の実施概要

#### 1.2.1. 評価組織

理工学部評価委員会ならびに理工学部個人評価実施委員会

#### 1.2.2 実施経緯、内容、方法等

- ① 平成21年2月18日 理工学部評価委員会
  - ・教員報告様式の「選択項目」を決定した。
  - ・評価スケジュールを決定した。
  - ・平成20・21年度教員個人評価様式を決定した。
  - ・教員個人評価（学科）集計と分析報告書（様式）について決定した。
- ② 平成21年2月27日

学部長は、全教員に対し、1年前（平成20年4月以降の採用者は採用後）に提出された「別紙様式1（平成20年度活動の「個人目標申告書」）、3（平成20年度活動の「自己点検・評価書」）、4（平成20年度活動の「個人評価結果」）をメールにて送付し、平成20年度活動の自己点検・評価を依頼し、別紙様式1・3・4を3月16日から27日までの間に提出するよう依頼した。

同時に、平成21年度の各様式もメールにて送付し、別紙様式1（平成21年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

③ 平成21年3月6日～3月下旬

情報企画室から、全教員に対し、別途送付された教員報告様式（CD-R）を全員に配布した。

各教員は、教員報告様式を作成し、3月末までにサーバーにアップロードすることになった。その際、同報告様式の送付先を各学科の評価担当者（平成21年度学科長）に指定することになった。

また、各教員は、教員報告様式を参考にして、平成20年度の自己点検・評価を行い、その結果を、別紙様式3に記載し、別紙様式1・4を含め3月16日から27日までに学部長へメールにて提出することになった。

同時に、平成21年度の各目標を別紙様式1に記載し、別紙様式3、4を含め学部長へメールにて提出することになった。

④ 平成21年5月11日

学部長は、各教員から提出された平成20年度の各様式（1・3・4）を各学科長に送付した。また、同時に「平成20年度教員個人評価（学科）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（フラッシュメモリーを手渡した。）

⑤ 平成21年5月中旬から5月末

各学科長は、別紙様式1、サーバーにアップロードされた教員報告様式及び別紙様式3に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式4（平成20年度の「個人評価結果」）に記載の上、5月末までに別紙様式1・3を含め、学部長宛に送付することになった。

また、同時に、各学科長は、平成20年度の個人評価結果について、各学科の集計と分析を行い、その結果を、「平成20年度教員個人評価（学科）集計と分析報告書」に記載し、学部長へ提出することになった。（学科長は、フラッシュメモリーと印刷物（ペーパー）を学部長へ手渡す。）

⑥ 平成21年7月初旬

学部長は、理工学部個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託する。

⑦ 平成21年7月中旬

同委員会は、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を学部長へ報告する。

⑧ 平成21年7月中旬～下旬

学部長は、別紙様式1、サーバーにアップロードされた教員報告書及び別紙様式3「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式4（平成20年度「個人評価結果」）の評価内容を確認し、必要があれば、評価結果の補足等及び学部長コメントを記載することとなった。

なお、学部長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めることとなった。

また、学部長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑨ 平成21年8月4日

学部長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式4（平成20年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、学科毎の平成20年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。

⑩ 平成21年9月9日

各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内（9月9日まで）に異議申立書（様式任意）を学部長に提出することとなった。

（異議申立書を提出した教員はいなかった。）

⑪ 平成21年11月中旬

学部版の平成20年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑫ 平成21年12月上旬

学部長は、学部版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、理工学部評価委員会に対し、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑬ 平成21年12月下旬

評価委員会は、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を学部長に報告する。

⑭ 平成22年1月下旬

学部長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて理工学部教員の個人評価結果を学長に報告する。

### 1.2.2. 添付資料

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

## 2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

はじめに、理工学部教員ならびに職員が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す。

- 平成 20 年度理工学部・工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：
  - 相手国：中国、韓国、インドネシア
  - 数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、電気電子工学科、機械システム工学科、機能物質化学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 大学院（工学研究科と農学研究科との連携）国際環境科学特別コース
  - 電気電子工学専攻、機械システム工学専攻、機能物質化学専攻、都市工学専攻、生体機能システム制御工学専攻、エネルギー物質科学専攻（後期課程）、生体機能システム制御工学専攻（後期課程）、システム生産科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 大学院大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
  - 佐賀大学大学院に博士後期課程を有する研究科の教育プログラムである。国際交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し、佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために、佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け、アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである。工学系研究科博士後期課程の全専攻の教員が参画
- 平成 20 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：協定校からの交換留学生の教育プログラム：物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、電気電子工学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 高等学校ジョイントセミナー、出張講義等
- 環境美化エコ活動
  - 平成 20 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月、8 月期ならびに 12 月、1 月期の空調断続運転
  - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

### 3. 評価領域別の集計及び分析

#### 3.1. 教育の領域

##### 3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部、修士）、受講学生数（延べ人数）、卒業研究指導学生数、修士特別研究指導学生数、博士研究指導学生数（主指導）を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当、指導学生数

学 科	職 種	学 部 (教養教育科目を含む)			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	修士 学生 指導 数	博士学 生指導 数
数理科学科	教 授	4.4	170	3.6	1.1	9.4	1.1	0.3
	准教授	4.5	185	3.8	1.0	9.8	4.7	-
物理科学科	教 授	6.9	312	3.1	3.1	16.4	2.0	0.7
	准教授	6.3	175	2.9	3.4	22.6	1.6	0.1
知能情報 システム学科	教 授	6.2	335	6.1	1.7	20.7	3.8	1.7
	准教授 (講師含)	6.0	284	4.7	1.7	24.7	1.3	-
	助 教	2.5	99	-	-	-	-	-
機能物質化学科	教 授	4.7	228	3.7	2.6	22.9	3.3	2.3
	准教授	4.5	243	3.7	2.0	21.9	2.7	-
	助 教	5.0	-	-	-	-	-	-
機械システム 工学科	教 授	4.2	274	5.9	3.7	36.9	6.1	1.3
	准教授 (講師含)	4.1	251	4.2	1.7	19.3	3.5	-
	助 教	2.0	107	2.0	-	-	-	-
電気電子工学科	教 授	5.0	290	5.9	3.1	25.8	6.0	0.9
	准教授 (講師含)	4.9	269	3.3	3.1	22.1	3.4	0.1
	助 教	2.0	62.3	-	-	-	-	-
都市工学科	教 授	3.9	310	4.6	2.1	20.2	3.1	1.1
	准教授	5.0	341	3.8	1.3	14.7	1.6	-
	助 教	2.0	100	-	-	-	-	-

受講生数は教務システムに登録された履修者数

同一の講義科目（実験実習を除く）を複数の教員で担当する場合、

- ・半期を通して担当するときは、受け持ちの受講学生数を記入
- ・時間を分割して担当するときは、その時間数で按分した受講学生数を記入

#### 【数理科学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 4.4 科目、延べ人数 170 名）、卒研指導学生数 32 名、修士指導学生数 8 名、博士指導学生数 1 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 4.5 科目、延べ人数 185 名）、卒研指導学生数 15 名、修士指導学生数 11 名、博士指導学生数 0 名であり、教授よりも多くの修士指導学生の教

育を担当している。

#### 【物理科学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 6.9 科目、延べ人数 312 名）、卒研指導学生数 3.1 名、修士指導学生数 2.0 名、博士指導学生数 0.7 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 6.3 科目、延べ人数 175 名）、卒研指導学生数 2.9 名、修士指導学生数 1.6 名、博士指導学生数 0.1 名であった。
- 学部・大学院授業担当については、教授が准教授より 1 コマ分多くの科目を担当することになっている。平成 20 年度は平均で、教授 7.9 コマ、准教授 6.0 コマであった。学科内で授業の担当については時間数（コマ数）で分担を決めているため、科目数ではばらつきが見られる。
- 博士前期課程については、研究指導資格のある教員については学生の希望を第一に担当を決めており、結果として一部の教員に学生が多くなる傾向がある。また、研究指導資格取得時期の関係で、この表には挙らないが実質的に指導している准教授がいる。

#### 【知能情報システム学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 6.2 科目、延べ人数 335 名）、卒研指導学生数 6.1 名、修士指導学生数 3.8 名、博士指導学生数 1.7 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 6.0 科目、延べ人数 284 名）、卒研指導学生数 4.7 名、修士指導学生数 1.3 名、博士指導学生数 0 名であり、学部教育に関しては教授とほぼ同等の科目、学生の教育を担当している。
- 助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 99 名で前期後期を通じて 2.5 コマを担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援を行っていることが報告されている。

#### 【機能物質化学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 4.7 科目、延べ人数 228 名）、卒研指導学生数 3.7 名、修士指導学生数 3.3 名、博士指導学生数 2.3 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 4.5 科目、延べ人数 243 名）、卒研指導学生数 3.7 名、修士指導学生数 2.7 名である。
- 助教は主に実験及び演習の指導を担当している。前期後期を通じて 5.0 コマを担当している。更に、助教は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。
- 教授と准教授は平等に教育を担当するようにカリキュラムが組まれており、卒研配属の学生数も同じである。助教にも卒研学生が配属され、卒業研究の指導を行っている。

#### 【機械システム工学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 4.2 科目、延べ人数 274.3 名）、卒研指導学生数 5.9 名、大学院（平均：担当科目数 3.7 科目、延べ人数 36.9 名）修士指導学生数 6.1 名、博士指導学生数 1.3 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 4.1 科目、延べ人数 250.6 名）、卒研指導学生数 4.2 名、

大学院（平均：担当科目数 1.7 科目、延べ人数 19.3 名）、修士指導学生数 3.5 名である。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

- 助教は主に実験指導（平均：担当科目数 2 科目、延べ人数 107 名）を担当しており、また卒研指導学生数 2 名である。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。また、助教の一人は大学院教育学研究科の兼任として講義を行っている。

#### 【電気電子工学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 5 科目、延べ人数 289.8 人）、修士（平均：担当科目数 3.1 科目、延べ人数 25.8 人）の講義科目を担当し、卒研指導学生数平均 5.9 人、修士指導学生数平均 6 人、博士指導学生数平均 0.88 人となっている。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 4.9 科目、延べ人数 269.3 人）、修士（平均：担当科目数 3.1 科目、延べ人数 22.1 人）の講義科目を担当し、卒研指導学生数平均 3.3 人、修士指導学生数平均 3.4 人、博士指導学生数平均 0.09 人となっており、教授に近い科目、学生の教育を担当している。教授は博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導しているが、平均 1.4 人の博士学生の副指導教員となっている。また、准教授は平均 0.45 人の博士学生の副指導教員となっており、実質指導を行っている教員もいる。
- 助教は全教員参加の大学入門科目や専門科目の学部（平均：科目数 1.7 科目、延べ人数 54.3 人）の講義科目を担当している他、准教授と共に学生実験指導を担当している。前期後期を通じて学生実験で担当する科目数及び指導する学生数は、助教の場合で平均 2 科目、62.3 人、准教授の場合で平均 1.6 科目、28.4 人である。尚、すべての学生実験は技術職員（8 名）の支援・協力を得て実施している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学修、進路、生活などに関わる相談）を行っていることが報告されている。

#### 【都市工学科】

- 教授は学部（平均：担当科目数 3.9 科目、延べ人数 310 人）、卒研指導学生数 4.6 人、修士指導学生数 3.1 人、博士指導学生数 1.1 人である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 5 科目、延べ人数 341 人）、卒研指導学生数 3.8 人、修士指導学生数 1.6 人、教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。
- 助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均延べ人数で 100 人で前期後期を通じて平均 2 コマを担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っている。

### 3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

#### 【数理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 毎時間演習を行い、課題としてレポート問題を課した。(教授)
- 定期試験の結果発表後に解答例の解説を行い、その数日後に再試験を行った。(准教授)
- 講義内容の重要事項についての「理解度チェックテスト」を配布し、宿題とした。(准教授)
- 毎回、小テストを行い、少なくとも1問は、全員が各単元の問題を解くようにした。(教授)
- 毎回出席を取り、成績判定基準を明らかにした。(教授、准教授)
- 毎回レポート問題を課し、次の週にはその解説を行った。(教授、准教授)
- 講義内容の重要事項をまとめたレジメを作成・配布した。(准教授)
- 具体的な計算方法をいろいろな例に基づいて理解できるよう心がけた。(教授、准教授)
- 講義(線形代数学ⅠおよびⅠⅠ)の内容に関する復習問題を全員に解答させ講義内容の定着を図った。(教授、准教授)
- レポート課題・試験の解答例はすべてWebで公開した。(講師)
- 修士論文のための部分的成果を、研究集会などの適当な機会に各地で講演させた。(教授)
- 出来る限り毎回、問題を出し、講義期間中2回に分けて問題の解答をまとめたレポートの提出を課して、自主学習を促した。(准教授)
- また、修士論文の研究に直結する形での指導も行った。(教授、准教授)
- 学生の理解を助けるために、スライドによる授業を行った。(准教授)
- 立体図形に関するセンスを養うために古典的な分野であるが解析幾何を題材に選び、啓蒙的な幾何教育を施した。(教授)
- 多様体論の入門的な講義を行うに当たり、学生の幾何的素養を育む説明ができた。(教授)

#### 【物理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 昨年度の授業評価アンケートにLMSの演習問題数を増やすようにとの希望があり、難易度の低い問題を追加した。(教授)
- 一昨年度の理工学部FD企画「e-Learning講習会」で得た知識を基に、学生に自主学習させるための問題を多数掲載したサイトを構築し、実際に学生の基礎学力が向上し、再試をしなかったが、合格率が向上した。(教授)
- 線形代数と力学の基本的な問題を毎週出題し、授業時間外学習を課した。(教授)
- e-LearningのLMSを利用し、毎週演習問題を出題し、回答状況を確認しながら、全員が回答するように指導した。(教授)
- 自作のテキストに多数の演習問題を掲載し、毎週出題することにより、授業時間外学習を課した。(教授)
- 授業の前半は、担当を決めて自作のテキストの内容を発表させた。後半はテキストから

演習問題をレポートとして出題した。(教授)

- 演習問題を収録した自作のテキストを公開し、学生が予習・復習をできるようにしている。LMS に演習問題を掲載し、自習できるようにしている。(教授)
- LMS のサイトに、大学初年次程度の力学や数学の基礎的問題を出題し、自学自習の助けにした。(教授)
- 小テストを実施し、基本的な知識の習得を確認している。(教授、准教授)
- パワーポイントによる講義を行い、文章や数式では理解しがたい概念を視覚的に説明している。(教授、准教授)
- 毎回、パワーポイントの配付資料を提供し、復習のための教材としている。(教授)
- 毎回、質問票を回収し、次の回に回答を配布している。(教授)
- 前回の結果から声の小さいことが分かったので、修正を心がけた。結果として今年度は全体平均とほぼ等しくなった。(准教授)
- シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。(准教授)
- 講義時間とは別に質問の時間を設けて対応した。(准教授)
- 昨年同様、講義初回に実施した独自アンケートで、受講学生の知識範囲や本講義に望むことなどを調査し、それらの意見をその後の講義にフィードバックさせながら、既に用意しておいた講義内容に盛り込む形で反映させていった。(准教授)
- 復習できるように授業に使用するスライドを WEB に公開した。(教授、准教授)
- 予習復習ができるように授業内容をホームページに掲載している。(教授、准教授)
- 昨年に引き続き、出席カードにその時間の概要と質問、要望などを授業ごとに書かせ、提出させた。マスプロ授業において、学生の傾向を知るのに役立った。(教授)
- 板書の改善が課題であったので、講義ノート作成の際には板書計画を加味して行った。磁気現象と電気現象の形式的類似点を明示しての説明を試みた。(教授)
- 極力例題を取り上げ解説を行った。(教授)
- 単位認定には出席がウエイトを占めるので、出席カード方式をとり、遅刻をふくめ確認を厳密にした。(教授)
- 自習促進と、理解を確認するため、期末以外に中間テストを実施。(教授)
- 出席カードに、毎回質問、疑問点を書かせ、次回からの説明の改善の参考にした。(教授)
- TA の支援により、学生の等身大の理解、到達点をモニターして、随時不明な点などに関する議論を心がけた。学生に説明をさせ、その場で考えさせ、未解決のまま後に持ち越さないようにした。(教授)
- 教材に学生自身が計算する題材を多くした。(教授)
- e ラーニングによる演習課題を与えた。(准教授)
- ほぼ毎回、演習問題の宿題を課した。(教授)
- 昨年度はシラバスとの対応に関する項目の評価が低かったため、授業の進行に応じてシ

ラバスとの対応に言及した。その結果、シラバスが役に立っているという項目で2.9より3.7まで増加し、授業内容がシラバスに沿っているという項目で3.75から3.88への微増があった。(教授)

- 出席も兼ねた質問表を配布して回収し、次の時間に回答を返却した。(教授)
- 中間試験を行った。2回、複数題の演習問題を課し、レポートとして提出を求め、模範解答の解説を行った。(教授)
- 再試験、口頭試問を繰り返し行うことにより、理解度を深めさせた。(教授)

#### 【知能情報システム学科】

- Moodle を用いて講義資料の配布、質疑応答の対応、学生の学習履歴が追えるようにした。(教授)
- 講義ノート web で公開し、予習復習ができるようにした。(教授)
- 前回の評価結果で復習の時間が少なかったため、復習する機会を与えるため、演習問題を出し、宿題を課した。(教授)
- 講義ノートを Web で公開し、毎回レポートを課した。(教授)
- 講義の様子を録画したビデオを公開して学生の復習に役立てた。(教授)
- 学生の疑問などにまめに答えた。(教授)
- ミニットペーパーにより予習および復習の時間を増やした。(教授)
- 毎週、2日後が締め切りの演習課題を与えた。(教授)
- 毎回の授業の後に学生が提出する質問票を分析精査し、次回以降の授業の質を高めた。(教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。(准教授)
- 講義資料の web への掲載時期を早めた。(准教授)
- 講義資料の電子化、科目ページへの掲載。質問票の回収および迅速なフィードバック(QA集の掲載)。(准教授)
- 質問票の回収および迅速なフィードバック。(准教授)
- 確認テストを毎回行い、フォローを入れた。小テストを数回行い、ドロップアウトを防ぐ努力をした。(准教授)
- 講義はすべて録画して、ストリーミング配信した。また、講義に関する資料や成績情報をホームページ上でユーザ毎に確認できるようにし復習環境を整えた。さらに、再試験を行う際には、指導者の監視の下、自習を義務付けた。(准教授)
- すべての答案を見せて、採点方法を説明した。なお、すべての問題に対する配点、評価基準はすべてホームページで公開している。(准教授)
- 前年度の理工学部 FD 企画として開催されて e-Learning(LMS)講習会で学んだ方法を活用し、学生が LMS で学習できるサイトを開いて学生の学習支援を行った。(准教授)
- スライドの切り替えが早いときがあるという指摘に対して、スライドの改善と e-Learning システムによる課題配布を行った。(准教授)

- 理解したことを表現させるためにプレゼンテーションを行わせた。また、授業評価結果から学生のわかりにくい部分を図やサンプルプログラムを増やし、学生と教員の質問回答が可能なように e-learning 形式に移行していった。(助教)
- レポート提出の際、授業とは別にレポート作成に要した時間を報告させた。(助教)
- 講義資料を web で公開し、予習復習ができるようにした。(助教)
- 予習用プリント(問題)を配布し、後日回収することで、自主学習を促した。(助教)

#### 【機能物質化学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 過去2年間の全科目の定期試験の問題、解答用紙、解答例を保存(教授、准教授)
- 専門科目について授業評価アンケートの実施、各科目と学年平均の集計結果をまとめた報告書の作成及び各教員による授業評価の結果に基づいた改善計画書の公開(教授、准教授)
- 中間試験、期末試験における成績分布の解析に基づく試験報告書の作成(教授、准教授)
- シラバスの講義内容に基づいた試験問題の作成、試験環境を整え、成績評価の適正化(教授、准教授)
- 試験後、個別に学生に来室させ、試験結果の解説を通して弱点の克服と勉強の仕方を指導(准教授)
- 講義ノートの作成とシラバスに沿った講義の実施、講義のポイントをまとめたプリントの配布(教授、准教授)
- チューターによる丁寧な実験指導(助教)
- 文字・図をわかりやすくするためパワーポイントの使用と教員の話に集中させるための原図の配布(教授、准教授)
- 授業中の学生の理解度を知らため、項目ごとに質問を受けるようにした(教授、准教授)
- 学生の口頭による説明力を養うため、実験レポートの試問時に、実験操作の概要や結果について発言させた(教授、准教授、助教)
- 学部専門科目の講義において、講義内容を理解させるために毎回小テストを実施(准教授)
- 教科書に記載されていない重要項目の解説、演習問題の解説、中間・期末試験の問題と解説をホームページに公開(教授、准教授)
- 分子模型等の教材を用いて、学生の理解度を上げる(准教授)
- 講義内容に関して、最近の話題を紹介して、勉学の動機付けを図っている(教授)
- 毎回出席をとり、学生に質問するようにしている(教授、准教授)
- 板書は色づけをし、大きな声でゆっくり話すように努めている(教授)
- 毎回宿題を提出し、学生の理解度を上げている(教授、准教授)
- 演習の時間を多くとり、理解を深めさせるようにしている。さらに、全員が解けるように補助説明(教授、准教授)
- 科学史を取り入れ、なぜそのような考え方が生まれたのかその背景を紹介するとともに、

学問や化学技術の流れを解説することにより、学生に興味と意欲を持たせるように努めた（教授）

- 学生と保証人との相談に応じ、学生の学習計画を指導（教授、准教授）
- メールアドレスを公開し、質問や提出物の添削は電子メールで個別指導（教授、准教授）

#### 【機械システム工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- クラス分けした小クラスの講義では、演習および期末試験を共通問題としている。（教授、准教授）
- 演習と一体で授業を進めることにより、講義+演習（復習）を反復的に行っている。（教授、准教授）
- 演習と期末試験により、厳格に成績判定を行っている。（教授、准教授）
- 4つの異なる事例からレポートを課し、総合力を量れるように工夫している。（准教授）
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。（教授、准教授）
- 毎週、演習問題を出題している。（教授、准教授）
- 復習のために、電子メールにて受講生全員へ毎回講義ノートを送信した。不定期に演習問題も課し、レポートとして提出させている。（准教授）
- テキストの演習課題および課題のプリントを解かせ、学生を指名して黒板で解かせて発表させている。（准教授）
- できるだけ基本問題から応用問題へと連続性を持たせるよう工夫している。（教授）
- 試験には、教科書、電卓を必携とし、記憶力に頼ること無く、現場での思考力を問う試験に変更している。同時に、試験問題と教科書の例題との関連を少なくし、現場で思考しなければ解けないようなものに変更している。（准教授）
- 授業時間外の自習時間を確保するため、授業の最後に毎回レポート課題を課している。また、Eメールで提出される課題の解答に不十分な点があれば再提出を命じている。（准教授）
- 実験テーマごとに、その実験に関連した項目について検索・情報収集を行うよう課題を与えている。（准教授、助教）
- TAの活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。（教授、准教授、講師、助教）
- 毎回、2題程度のプログラム作成課題を課し、プログラムが動作するまでTAとともに指導している。（准教授）
- 授業科目が機械工学の関連分野についてどのように関わるのかを最新の設計プロセス等を解説しながら、プロジェクターで見せながら説明している。（教授）
- スライドの色調をより見やすいものに変更している。（准教授）
- 板書の代わりにパワーポイントによる説明を行なっている。また、専用HPを開設して、そのファイルを復習用に掲示している。（准教授）
- パワーポイントの内容、配布資料の内容、講義内容の見直しによる質の向上を図ってい

る。(准教授)

- グループディスカッションやプレゼンテーションを利用して、考える力を養うようにしている。(教授)
- CAE 実習を取り入れることにより、実質的な理解をさせている。(教授)
- 有限要素法を分かりやすく解説している。(教授)
- 実験を行う前に、座学講義で学習してきたそれぞれの実験テーマに関連する定理・用語等について説明を行い、講義と実験を関連付けている。(助教)
- 実際の DC モーターを用いて、モーターおよび発電機の仕組みを説明している。(准教授)
- 卒業研究着手予定者は PC を購入する機会が多いので、最新の開発状況をメカトロニクスの話と交えながら説明している。(准教授)
- 新しい研究分野を例として研究の方法論について説明している。(准教授)
- 講義形式で行い、信号処理の基本から説明している。(准教授)
- 学生の要望があるときは、自室にて基礎的な内容から指導している。(准教授)
- 自学習が出来るように資料を事前に渡し、関連基礎技術のアドバイスをしている。(教授、准教授)
- 自学習が出来るように参考資料付きの資料を事前に渡している。(教授、准教授)
- 総合情報基盤センターで自主学習している学生もフォローするようにしている。(准教授)
- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。(教授、准教授)
- 不定期にレポート課題を課し、自主学習を促進させている。(教授、准教授)
- 補習的な内容で基礎学力が不足している学生に対して指導を行っている。(准教授)
- 専用 HP を開設して、ファイルを復習用に掲示している。(准教授)
- Web サイトに講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにしている。(准教授)
- プログラムの動作を検証するため、Maple、gnuplot など利用できるアプリケーションの利用法を説明している。(准教授)
- e ラーニングと小テスト問題の充実を図っている。(教授)
- e ラーニングによる予習・復習用コンテンツ作成を行なっている。(教授)
- e ラーニングシステムの理解と、e ラーニングを利用した授業の設計と制作を行なっている。(教授)
- e ラーニングを用いてリメディアル教育を行なっている。(准教授)
- 予習・復習に e ラーニングを利用して、理解が図れるようにしている。(教授)
- ICT を利用した授業を行なっている。(教授)

#### 【電気電子工学科】

- 教養 3 科目においては実演を行い、学生の興味と実感が沸くように工夫した(准教授)
- 同一学科所属教員による授業参観を受け入れた(教授、准教授)
- 学生の授業評価・要請に基づき、復習などに活用できるよう説明資料を工夫した(教授、

准教授)

- 受講生に対し演習、宿題等を課し、理解度向上に努めた (教授、准教授)
- 個人面談や自習室での指導を通じて合格率を向上させた (教授)
- 再試験の実施にあたり、事前の自習を要求している (教授、准教授)
- 講義で用いた資料を公開および配布し、復習出来るよう配慮 (准教授)
- プログラミング演習においてプログラム例を HP 上で公開し、各自が実行できる環境を整えた (助教)
- 実験科目においては、レポートのチェック、学生面談などを通して理解度の向上に努めた (助教、准教授)
- 実験科目においては、技術職員、TA による支援体制をとった (助教、准教授)
- 演習科目においては、TA による支援体制をとり、学生の学習相談を促す工夫をとった。(教授、准教授)
- 最新の話題、基礎科目の専門科目や産業応用とのつながりといった学生の理解を高める工夫を実施 (准教授)
- 大学院生には学外での研究発表を義務化 (教授、准教授)
- 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善、例えば、なるべく大きな声で説明、ゆっくり丁寧に説明、資料は見やすく、理解しやすく工夫している (教授、准教授)

#### 【都市工学科】

- 受講生に対し講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェックしている。(複数の教員)
- 再試験の受験者には、事前の自習を要求している。(教授、准教授)
- 授業アンケート結果を踏まえ次年度に向けた改善点をシラバスに明記し、周知徹底を図った。(複数教員)
- 宿題や演習問題の模範解答を答案返却時に配布し復習の徹底を図った。(准教授)
- 宿題の解答を講義の始めに板書により解説し知識の定着を図っている。(教授)
- 講義における学生の発言を促す工夫をした。(教授)
- E X C E L 統計関数機能を講義で利用した。(教授)
- 実務で用いられている解析ソフトを使った講義への実践した。(准教授)
- 演習科目では、レポートのチェック、注意事項の学生への徹底した。(准教授、助教)
- 講義ノートを作成 (邦文や英文) と Web 公開している。(准教授)

### 3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FD について、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

#### 【数理科学科】

学科内での FD 活動の他、

- 数理ファイナンスコースの説明と質疑応答 (准教授)
- 佐賀県高等学校教諭との交流会 (准教授)

- 第5回公開授業（准教授）
- 第13回佐賀大学FD・SDフォーラム（准教授）
- 第14回佐賀大学FDフォーラム（教授）
- 第2回佐賀大学FD・SDフォーラム（教授）
- 第1回理工学部・工学系研究科FD講演会（教授）

への参加が報告されていた。

#### 【物理科学科】

学科内での恒常的なFD活動の他、

- 高等教育開発センターFD・SDフォーラム（企画・講師・参加）（教授、准教授）
- 教育功績等表彰者懇談会（企画・参加）（教授）
- 理工学部FD講演会（参加）（教授、准教授）
- eラーニングセミナー（講師・一般参加）（教授）
- 第6回公開授業（聴衆として参加）（教授）

が報告された。

#### 【知能情報システム学科】

学科内でのFD活動の他、以下への参加が報告されていた。

- 理工学部FD講演会での報告（教授）
- 理工学部FD講演会での講演（教授、准教授）
- 理工学部FD講演会への参加（教授、准教授）
- 佐賀大学FD・SDフォーラムでの司会（准教授）
- 佐賀大学FD・SDフォーラムへの参加（教授、准教授）
- 情報処理学会、JABEE情報および情報関連分野審査講習会および技術者教育セミナーへの参加（准教授）

#### 【機能物質化学科】

学科のFD活動として次のような記載がある。

- 学科に教育プログラム委員会を設置し、授業改善について議論した。（教授、准教授、助教）
- 学科で、JABEEに関する講演会を1回開催した。（教授、准教授、助教）
- 基礎科目の補習ができるように演習問題とヒント、解答を載せたe-Learningシステム構築した。（教授、准教授）

学科内でのFD活動の他、

- 理工学部・工学系研究科FD講演会（教授、准教授、助教）
- 全国大学化学系教育研究集会（教授、准教授、助教）
- 佐賀大学FD・SDフォーラム（教授、准教授、助教）
- JABEE審査委員（副審査長）（准教授）
- 公開授業（教授、准教授、助教）
- 情報リテラシ・情報セキュリティ講習会（教授、助教）

- 大学コンソーシアム京都 第14回FDフォーラム(教授)
  - 日本化学会シンポジウム『科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える(5)』(教授)
- への参加が報告されていた。

#### 【機械システム工学科】

学科内でのFD活動の他、

- 学部FD講演会への参加(教授、准教授、講師、助教)
- 昨年度の再評価を行うことで、前年度より合格率が向上(准教授)
- 佐賀大学FD・SDフォーラムへの参加(教授)
- 学外FDフォーラムへの参加(教授)

#### 【電気電子工学科】

学科内でのFD活動の他、

- 平成20年度 第1回理工学部・工学系研究科FD講演会への参加：数学力向上を目指した取り組み〔3月11日〕(教授、准教授、助教)
- 平成20年度第2回理工学部・工学系研究科FD講演会への参加：JABEE受審報告〔3月23日〕(教授、准教授、助教)
- 平成20年度第6回公開授業への参加〔2月2日〕(准教授)
- FD・SDフォーラムへの参加：学士力と高大接続の課題(2月24日)(准教授)
- 平成20年度第1回(第13回)佐賀大学FD・SDフォーラム：LMSを活用した教育成果(7月16日)(教授、准教授)
- 第2回佐賀大学FD・SDフォーラムへの参加：学士力と高大接続の課題について(2月24日)(助教)
- 電気電子工学科授業参観への参加：電子回路演習の参観(12月2日)(准教授、助教)
- 教育改善委員会(60分×4回)、カリキュラム検討委員会(120分×11回)、JABEE委員会(約90分×11回)、学生実験委員会(90分×12回)にて定期的に教育改善等について議論(教授、准教授、助教)

学外でのFD活動の他、

- 電気学会主催JABEE審査員養成講習会への参加：審査基準や審査方法について講習〔11月15日〕(准教授)
- 電力教育九州フォーラム(熊本大学)への参加：電力教育の現状と問題点(11月21日)(教授)
- 技術者教育と優良実践研究会(機械振興会館)への参加：JABEE認定校の実践状況の紹介(12月12日)(教授)
- 電気系教員協議会(福岡大)への参加：電気電子工学にかかわる教育研究問題(教授、准教授)

#### 【都市工学科】

学科内でのFD活動の他、

- 理工学部・工学系研究科FD講演会への参加(教授、准教授)

- 佐賀大学 FD・SD フォーラムへの参加（教授、准教授）
- 公開授業への参加（准教授）
- 情報リテラシ・情報セキュリティ講習会への参加（准教授、助教）
- 建築士法改正に伴う大学カリキュラムの対応について学会研修会への参加（准教授）

### 3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

#### 【数理科学科】

- 相談内容は学修相談、進路相談や生活相談に関するものが多い。（教授、准教授）

#### 【物理科学科】

- 学科では卒業研究着手までの担任制を4年前から始めており、健康上の理由のために担当できない教員以外は、全員、3ないし4名の学生の担任の役割を果たしており、毎年度初めにオフィスアワーを活用して面談を実施している。（教授、准教授）
- 特に修学上の遅れがみえる学生については、教室会議で取り上げ情報交換し、可能な限りの対策を行っている。（教授、准教授）
- 大学院生については、指導教員が担任の役割を果たしている。（教授、准教授）

#### 【知能情報システム学科】

- すべての教員が多くの学生の相談に対応している。オフィスアワーはもちろん、それ以外の学生の訪問による相談、メールによる相談も多数あった。（教授、准教授、講師、助教）
- 相談内容の多くは学修上の悩みである。また、進路に関する相談も多く、他に、生活上の相談もあった。（教授、准教授、講師、助教）

#### 【機能物質化学科】

- 全ての教員は最低1校時のオフィスアワーを設定し、その時間を学生センターのホームページで公開している。主に、担当授業の内容、成績について質問を受けている。（教授、准教授、助教）
- 学生と教員の距離を縮め、学生が気軽に教員にコンタクト出来る様、平成15年度の入学者から、各教員が各学年3～4名の学生を担当するチューター制度を実施した。チューターは毎学期、受け持ち学生の学修相談や生活相談に応じている。また、学生の学期毎の学習目標の設定と評価、履修状況の確認を行っている。（教授、准教授、助教）
- 成績不振学生については、年2回保護者を交えて三者面談を行い、修学指導を実施している。（教授、准教授、助教）
- 学科に教育プログラム委員を置き、委員長が履修上の相談、各種申請の窓口となって学生に対応している（教授、准教授、助教）

#### 【機械システム工学科】

- 相談内容の半数以上が学修相談、以下、進路相談、生活相談の順となっている。(教授、准教授、講師、助教)

#### 【電気電子工学科】

- 教員一人当たり平均 68.0 件の学生相談を受けている。(全教員)
- 1 年次学生についてはチューター制により少人数対応の指導を行っている。(全教員)
- 2、3 年次は学年担当教員、教務員、学生委員が指導を行っている。(教授、准教授、助教)
- 4 年次は卒論指導教員が指導を行っているが、就職に関しては就職担当教授も指導している。(教授、准教授)
- 相談内容は、学修相談、進路相談が多い。(教授、准教授、助教)

#### 【都市工学科】

- オフィスアワーでの相談内容は宿題の解き方、講義内容に関する質問、最終試験の範囲などに関するものが多い。(教授、准教授、助教)
- 4 年生への就職活動指導については、就職担当教授以外の教授も専門分野の企業情報について情報提供を行っている。(教授)
- チューター制により年 2 回(每学期初め)の個人面談を行っており、履修と単位取得状況のチェックや修学上の相談に定期的に対応している。(教授と准教授全員)

### 3.1.5. 学生の受賞等

#### 【数理科学科】

- 中国政府 Chinese government award for outstanding self-financed student abroad 賞  
(指導教員：教授)

#### 【知能情報システム学科】

- 教育システム情報学会学生研究発表会優秀賞(指導教員：准教授)
- KES2008 BEST POSTER AWARD(指導教員：教授)
- 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞(指導教員：教授)

#### 【機械システム工学科】

- 2008 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation 論文賞(指導教員：教授)

#### 【電気電子工学科】

- 電子情報通信学会 学生会講演奨励賞(指導教員：准教授)
- IEEE IEEE 福岡支部学生研究奨励賞(指導教員：准教授)
- 映像情報メディア学会 放送技術研究会学生発表部門最優秀賞(指導教員：准教授)

#### 【都市工学科】

- 2008 年度日本コンクリート工学協会九州支部長賞 2 名(学部生と院生各 1 名)(指導教員：教授、准教授)
- 2008 年度日本建築学会九州支部支部長賞 1 名(指導教員：准教授)
- 都市住宅学会九州支部 2008 年度優秀学生賞 1 名(指導教員：教授)

- 2008 年度日本都市計画学会九州支部支部長賞 1 名（指導教員：准教授）
- 平成 20 年度地盤工学会九州支部優良学生賞 1 名（指導教員：教授、准教授）

【佐賀大学学長賞】

- 機械システム工学専攻 1 名（指導教員：教授）
- 電気電子工学専攻 4 名（指導教員：教授）
- 電気電子工学専攻 1 名（指導教員：准教授）

## 3.2. 研究の領域

### 3.2.1. 著書、論文等の発表実績

過去5年間（H16.4.1～H21.3.31）の発著書、論文等の発表実績を表3.2に示す。

表3.2 過去5年間（H16.4.1～H21.3.31）の発著書、論文等の発表実績

学 科	職 種	著 書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学科	教 授	1-5	3-23	3-23	0	0	3-23	3-23
	准教授	0	2-5	2-5	0	0	2-4	2-4
物理科学科	教 授	0	2-44	2-44	0-1	0-1	2-44	2-44
	准教授	0	0-21	0-21	0	0	0-21	0-21
知能情報 システム学科	教 授	0-6	2-62	2-57	0-27	0-23	0-35	0-34
	准教授 (講師含)	0-7	3-22	3-22	0-5	0-5	1-17	1-17
	助 教	0	0-5	0-5	0-1	0-1	0-4	0-4
機能物質化学 科	教 授	0-5	5-54	5-53	0-6	0-6	5-54	5-53
	准教授	0-3	6-60	6-55	0-12	0-11	6-52	6-47
	助 教	0-2	1-46	1-46	0-6	0-6	1-40	1-40
機械システム 工学科	教 授	0-10	17-185	5-185	0-15	0-5	2-183	2-183
	准教授 (講師含)	0-6	4-147	3-147	0-8	0-8	3-147	2-147
	助 教	0	7-17	4-17	2-16	2-3	1-15	1-15
電気電子工学 科	教 授	0-6	8-53	8-53	1-16	1-16	5-52	5-51
	准教授 (講師含)	1-6	0-48	0-48	0-6	0-6	0-47	0-47
	助 教	0	7-18	7-18	3-6	3-6	4-13	4-13
都市工学科	教 授	0-2	1-37	1-37	0-9	0-9	0-36	0-36
	准教授 (講師含)	0-5	1-26	0-13	0-26	0-8	0-10	0-5
	助 教	0	2-26	1-18	2-25	1-10	0-9	0-9

表中、例えば、(0-2)は実績の（最小数0-最大数2）を表す。

【数理科学科】本表より、優秀であることが窺い知れる。

【物理科学科】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる
- 准教授の研究活動は概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【知能情報システム学科】本表より、順調な研究業績の教員の一方で、業績が少ない教員が見られる。助教の研究活動への支援強化が必要であると思われる。

【機能物質化学科】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に一人平均26編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は良好であり、5年間に一人平均18編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5年間に一人平均17編の査読付き論文を報告している。

【機械システム工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行なわれていることが窺い知れる。

【電気電子工学科】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は総じて良好である。
- 准教授の研究活動は一部を除いて良好である。
- 助教の研究活動は総じて良好である。

【都市工学科】本表において、原著論文数のばらつきが大きい。

- 平成 19 年度の研究業績に比べ部分的に数字が減じている。本年度は准教授 1 名と助教 2 名を迎えたことで最小数の、平成 19 年度は原著業績を査読の有無を考慮せずに総数を記載したことによる最大数の低下を来たしている。本年度の業績を総数表示すれば最大数は増加している。
- 助教 2 名を迎えたことで特に助教の研究業績の最大数が格段に増加している。組織としての研究活動が強化されたと考えられる。
- 学科全体としては、一層の研究活動が望まれる。国外の協定校との交流や留学生受入れを推進するためにも英文査読付き原著論文について、より一層の研究活動が望まれる。

### 3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- 数学の共同研究は個人と行うことがほとんどで、その一端は国際交流を参照されたい。  
(教授、准教授)

【物理科学科】

- 高エネルギー物理学研究所との共同研究 (教授)
- 産総研との共同研究 (教授)
- 東北大学金属材料研究所との共同研究 (准教授)

【知能情報システム学科】

- 知能情報システム学科に対する教育研究助成 (教授) (500 千円)
- 民間との共同研究：OLAP 技術を活用したデジタル文書の分類・整理ツール (准教授) (500 千円)
- 大学評価研究委託事業：IT 専門職大学院の認証評価モデルの研究開発事業 (准教授) (10295 千円)
- 知能情報システム学科に対する教育研究助成 (教授) (300 千円)
- 共同研究費 (STS メディアレップ)：ワンセグ放送とストリーミング技術および位置情報サービス連動に関する研究と実証 (教授) (1000 千円)
- 佐賀大学学科研究助成奨学寄附金 (ネットスプリング)：Web 認証の IP v 6 化の研究 (300 千円)
- 知能情報システム学科に対する教育研究助成 (教授) (900 千円)
- WINDS 衛星を介した災害時バックアップ通信および防災情報通報システムの研究開発 (教授) (3250 千円)
- 九州経済連合会宇宙利用プロジェクト (教授) (300 千円)

- 国別特設インドネシア e-learning (Mobile Learning)研修 (教授) (3000 千円)
- スラバヤ工科大学高度人材育成 (教授) (1900 千円)
- A S T E R V N I R, S W I R の代替校正 (教授) (2100 千円)

#### 【機能物質化学科】

- 機能物質化学科に対する教育研究助成 (教授) (外部資金 114 万円)
  - 機能物質化学科に対する教育研究助成 (教授) (外部資金 50 万円)
  - 機能物質化学科に対する教育研究助成 (准教授) (外部資金 65 万円)
  - 機能物質化学科に対する教育研究助成 (准教授) (外部資金 50 万円)

以下委任経理金に関する報告多数につき、割愛

- 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) (教授) (754 万円)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) (教授) (182 万円)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) (准教授) (234 万円)
- 以下科学研究費補助金に関する報告多数につき、割愛

#### 【機械システム工学科】

- H D I 技術の研究開発 (准教授)
- 多軸精密制御による次世代型プレス機及び金型の研究開発 (教授)
- 企業在職者向けの自動車産業人材育成プログラムの研究会開発・実践 (教授)
- 水素吸蔵合金を用いた車載等水素貯蔵システムの研究開発 (准教授)
- 水素雰囲気における高沸点ガスの露点測定 (准教授)
- 水素計測用臨界ノズル流量計に関する基礎研究 (教授)
- 熱間圧延 ROT 冷却技術開発 (准教授)
- その場観察によるマグネシウム合金の繰返し変形および疲労破壊メカニズムの解明 (助教)
- 2次元および3次元その場観察によるマグネシウム合金の繰返し変形および疲労破壊メカニズムの解明 (助教)
- 超高速玉軸受の玉の三次元運動計測と運転性能に関する研究 (教授)
- 高速ボールねじの玉の三次元運動挙動計測と運転性能に関する研究 (教授)
- 転動疲労寿命に及ぼす表面粗さの影響評価 (教授)
- 超硬材料のスポーリング特性試験について (教授)
- 熱可逆性ゲル状潤滑剤のトライボロジー的性質と応用展開の可能性 (教授)
- 潤滑油の高圧粘度計測による圧力粘度特性に関する研究 (教授)
- 時空間勾配解析に基づく実時間音声分離システムの開発 (准教授)
- 高性能ヘリカルポンプギヤの開発 (教授)
- 多軸精密制御による次世代型プレス機及び金型の研究開発 (准教授)

#### 【電気電子工学科】

- ミリ波位相同期発振器アレイに関する民間との共同研究 (教授、助教)
- ミリ波モジュールに関する民間との共同研究 (教授、助教)

- 崇城大学工学部との超電導コイルの交流損失測定法に関する共同研究（准教授）
- デバイスパラメータの検証に関する民間との共同研究（准教授）
- アナログセル設計に関する民間との共同研究（准教授）
- 振動法による回転機の余寿命評価に関する民間との共同研究（教授）
- 統計解析を用いた加圧流動床ボイラの新炭種事前評価手法に関する民間との共同研究（教授）
- パルス通電焼結技術とプラズマ技術を融合した機能性新規薄膜材料の技術開発に関する官学（佐賀県工業技術センター・福岡工業大学）間共同研究（助教）
- 永久磁石式モータの損失解析手法に関する民間との共同研究（教授）
- 平成16～17年度地域新生コンソーシアム研究開発事業「テルル化亜鉛系材料を用いた高効率純緑色発光ダイオードの開発」に係る産学官の補完研究（教授、准教授）
- 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究「知的ナノ集積システムの実現に関する研究」（准教授）
- オゾン貯蔵活用システムの実証研究に関する民間との共同研究（教授）
- キャビテーション気泡群放電による水処理技術の研究に関する民間との共同研究（教授）
- 薄膜センサの身体重心動揺測定への応用に関する独立行政法人産業総合研究所との共同（教授）

#### 【都市工学科】

- 共同研究「地域情報共有システムを活用した地域でのリスクマネジメントに関する研究」（教授）
- 受託研究「鹿島市観光サインのあり方に関する調査研究」（准教授、助教）
- 受託研究「肥前浜宿（庄金地区）における街なみ環境整備のあり方に関する研究」（准教授、助教）

### 3.2.3. 受賞等の実績

#### 【知能情報システム学科】

- Outstanding Presentation 賞（ワイヤレスセンサネットワークの低電力プロトコルの一種である階層的 GAF において、セルサイズの上界を改良した）（准教授）
- KES2008 BEST POSTER AWARD (Data Mining for Navigation Generating System with Unorganized Web Resources)（教授）

#### 【機能物質化学科】

- Tokyo Symposium on Advanced Analytical Science and Technology より The Best Presentation Award（教授）
- 日本分析化学会より Hot Article Award 受賞（教授）

#### 【機械システム工学科】

- 日本材料学会 優秀講演発表賞（助教）
- 日本冷凍空調学会 奨励賞（助教）
- Best Presentation Award International Conference on Industrial Informatics 2008(教授)

**【電気電子工学科】**

- ICROS Fellow 受賞 (教授)
- Best Paper Award at The 14th Symposium of AROB (教授)

**【都市工学科】**

- 大川家具工業会より「九州温泉旅館客室コンペティション 2008」にて入選 (准教授)
- かごしまデザインフェア実行委員会より「かごしまデザインコンペ 2009」にて入選 (准教授)

### 3.3. 国際・社会貢献の領域

#### 3.3.1. 国際交流実績

##### 【数理科学科】

- Wei Guoxin、Li Xingxiao、Chen Daguang、Chen Qun、Shi Yuguang、Ding Qing、Xu Hongwei、Li Anmin、Zhang Xiao（中国）、El Soufi Ahmad（フランス）、Harrell Evans（アメリカ）、Suh Young Jin、Si-jong Kwak、Jihoon Lee、Hyeong-Ohk Bae、Kyungkeun Kang、Dongho Chae（韓国）を共同研究のため招聘した。（教授）
- 博士後期留学生の受け入れ・指導（教授）

##### 【物理科学科】

- 理工学部国際パートナーシップ講師（教授、准教授）
- 海外からの研究者の受け入れ（教授、准教授）
- 留学生の受け入れ（教授）
- カナダ TRIUMF 国立研究施設での研究（教授）
- 科研費補助金を利用した国際会議での講演（教授、准教授）

##### 【知能情報システム学科】

- JICA インドネシア遠隔教育（Mobile Learning）コンテンツ開発コース研修計画（教授）
- JICA 技術協力プロジェクト：スラバヤ工科大学とのコラボレーション（教授）

##### 【機能物質化学科】

- 学術振興会特定国派遣研究者（チェコ、1ヶ月間）（教授）
- 理工学部国際パートナーシップ講師（教授）
- 海外研究者の受け入れ（2ヶ月間）（教授）
- 海外研究者の受け入れ（5ヶ月間）（教授）
- 海外研究者の受け入れ（5ヶ月間）（准教授）

##### 【機械システム工学科】

- 国際パートナーシップ講師（教授、准教授、助教）
- 海外からの研究者の受け入れ（6件）（教授、准教授）
- 留学生の受け入れ（教授、准教授）
- 国際会議における発表等（53件）（教授、准教授、助教）
- 外国語によるHPの開設（教授、准教授、助教）

##### 【電気電子工学科】

- 留学生に対する日本語講義科目への配慮（准教授、講師）
- 外国語によるホームページの開設（准教授）
- 海外（中国、ポーランド）からの研究者受け入れ（教授）
- 私費、国費の留学生等（総計9名）の受け入れ（教授）
- 理工学部国際パートナーシップ講師（教授、准教授）
- マニトバ大学（カナダ）におけるインテグレートッドアンテナの研究にかかわるサバテ

ィカル研修（講師）

- 国際学会等の参加・講演 28 件（教授、准教授、講師）

#### 【都市工学科】

- 理工学部国際パートナーシップ講師の派遣と受け入れ（教授）
- 国際研究プロジェクト（中国）への参加（教授）
- 学位審査員（タイ）の受け入れ（教授）
- 学術交流などによる共同研究者の受け入れ（教授）
- 日・タイ院生との教育研究交流（教授）
- 海外からの研究者・院生の受け入れ（教授）

### 3.3.2. 社会貢献実績

#### 【数理科学科】

- 九州数学教育会大学入試説明会講師（教授）
- ジョイントセミナー
- 佐賀北高校、長崎県立大村高等学校、長崎島原高等学校（教授、准教授）
- 山口東京理科大学工学部幾何コロキウム講演者（教授）
- ナビエストークス方程式と関連する話題に関する数学解析代表（教授）
- 佐賀大学数学教員と佐賀県高等学校教諭との交流会（教授、准教授）

#### 【物理科学科】

- 日本物理学会代議員（教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 科学基礎論学会学会賞選考委員（教授）
- Defect and Diffusion Forum 論文誌 Editor board（教授）
- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員（准教授）
- 九州大学大学院アドバイザー委員会委員（准教授）
- 佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員（教授）
- 先端基礎科学次世代加速器研究会委員（准教授）
- 高エネルギー加速器研究機構 放射線安全審議委員会安全審議委員会委員（教授）
- 国際リニアコライダー基本設計条件決定のための調査計画立案等業務（准教授）
- 先端基礎科学次世代加速器研究会講演会講師（教授）
- e ラーニングセミナー講師（教授）
- 佐賀県高等学校理科実習教諭等研修会講師（教授）
- 2008 年長崎平和研究講座講師（教授）
- 高大連携「体験講座」講師（教授、准教授）
- 公開講座「素粒子の世界への誘い」講師（教授、准教授）

- ジョイントセミナー講師（教授、准教授）

#### 【知能情報システム学科】

- 可視化情報学会：ウェブレット研究委員会委員（教授）
- 国連・国際学術連合・宇宙研究委員会：コミッションA(地球環境)副議長（教授）
- 日本リモートセンシング学会：地球環境研究会会長（教授）
- 日本リモートセンシング学会：九州支部顧問（教授）
- 九州航空宇宙開発推進協議会講師（教授）
- リモートセンシングシンポジウム講師（教授）
- 九州航空宇宙開発推進協議会主催講演会講師（教授）
- NPO 法人鳳雛塾副理事長（教授）
- 日本宇宙少年団武雄分団分団長（教授）
- NPO 法人シニアネット佐賀理事（教授）
- 州経済連合会九州航空宇宙開発推進協議会、宇宙利用プロジェクト創出研究会・宇宙利用グループリーダ（教授）
- 唐津市「ユビキタス地域社会を実現する地域情報化基盤の利活用に関する研究」委員長（教授）
- 九州情報通信連携推進協議会コーディネータ（教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授）
- 学術論文査読（教授、准教授、助教）
- 学会役員（教授、准教授）

#### 【機能物質化学科】

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 学会研究会幹事（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授、准教授）
- 学会開催の実行委員、運営委員など（准教授）
- 高校生ものづくりコンテスト九州大会講師（教授）
- 佐賀県理科・化学教育研究発表会実行委員・講師（教授、准教授）
- 化学への招待実行委員・講師（教授、准教授）
- 自分でためそう、環境負荷の実態実行委員（教授）
- 環境の科学講師（教授）

#### 【機械システム工学科】

- 学会理事（教授）
- 学会評議員（教授）
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員（教授，准教授）
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など（教授）
- 研究会会長，幹事など（教授）

- 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授，助教）
- ジョイントセミナー（13件）（教授，准教授）
- 公開講座の講師担当（教授，准教授，助教）

#### 【電気電子工学科】

- 国際シンポジウム実行委員（教授）
- 国際会議実行委員（講師）
- 国際会議運営委員（准教授）
- 国際会議組織委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（准教授）
- 学会評議員（教授）
- 学会理事（教授、准教授）
- 学会評議員（准教授）
- 学会支部長（教授）
- 学会幹事（教授、准教授）
- 学会学生会顧問（准教授）
- 学会役員（准教授）
- 学会代議員（准教授、講師）
- 学会専門委員会委員（教授、准教授、講師）
- 学会専門委員会幹事（教授、准教授）
- 学会専門委員会客員（教授）
- 学会広報委員（講師）
- 学会実行委員（講師）
- 学会研究会幹事（教授）
- 学会論文査読委員（准教授、講師）
- 論文査読 72 件（教授、准教授、講師、助教）
- 理工学部技術職員研修（教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など（教授、准教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授、講師）
- 学会開催の実行委員、運営委員など（准教授）
- 受託研究（アジア科学技術協力の戦略的推進 ユビキタス情報社会を支える通信基盤技術）の実施（教授、講師）
- 受託研究（実用化可能性試験）の実施（教授、准教授）
- 受託研究（基盤技術開発）の実施（准教授）
- 民間への情報提供、技術提供、技術指導（教授、講師）
- 佐賀大学エレクトロニクス・ものづくり体験教室開催（准教授）
- サイエンスパートナーシップ(SPP)事業の参加（教授、准教授）
- 小学校による見学会開催（准教授、助教）

- 研究生への研究指導（教授）
- 公開講座 講師（教授、准教授）
- リフレッシュ理科教室（准教授、助教）
- SPP 事業(武雄高校)の協力（准教授）
- 研究会世話役（准教授）
- 研修会・講習会（教授、准教授）

#### 【都市工学科】

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 学会研究会幹事・理事・商議員（教授、准教授）
- 佐賀県、佐賀大学主催の講習会・研修会講師（教授、准教授、助教）
- 協会主催の建設技術者 CPDS 研修会の講師（教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授）
- 学会開催の実行委員、運営委員など（教授、准教授）
- 市民向け講演会などの講師担当（教授、准教授、助教）
- コンペ審査会等の審査員（准教授）

### 3.4. 組織運営の領域

#### 【数理科学科】

- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）
- LMS 教材の作成（准教授）
- 第5部会数学分野連絡係（准教授）
- 数理科学科SU委員（准教授）
- 数理科学科学科内教務委員（准教授）

#### 【物理科学科】

- 理工学部各種委員の担当（教授、准教授）
- 教育研究評議会評議員（教授）
- 理事補佐（教授）
- 高等教育開発センター・センター長（教授）
- 教養教育運営機構機構長（教授）
- 理工学部学部長補佐（教授）
- 工学系研究科エネルギー物質科学専攻物質科学大講座主任（教授）
- 物理科学科学科長・物理科学専攻主任（教授）
- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（教授、准教授）
- 学科内各種委員の担当（教授、准教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、准教授）

#### 【知能情報システム学科】

- 全学委員、理工学部各種委員の担当（全教員）
- 研究室システムの管理・運營業務（助教）
- 高等教育開発センターへ委任として業務遂行（准教授）
- 総合情報基盤センター副センター長として業務遂行（教授）
- 知能情報システム学科計算機運用委員会（教授、准教授、助教）

#### 【機能物質化学科】

- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）
- 高等教育開発センターセンター長（教授）
- 教育研究評議会評議員（教授）
- 留学生センターセンター長（教授）
- 総合分析実験センター副センター長（教授）
- 大学教育委員会・FD 専門委員会委員長（教授）
- 連携大学院運営委員会委員長（教授）

#### 【機械システム工学科】

- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 美化デーなどの活動に積極的に参加（全教員）

【電気電子工学科】

- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学科】

- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）
- 教育研究評議会評議員（教授）
- アドミッション・センター併任教員（教授）

#### 4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

##### 4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

学 科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会 貢献の領域		組織運営の領域		総合 評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学科	教 授	3-5	70-95	3-5	70-100	2-5	70-95	2-5	70-95	3-4
	准教授	4-5	80-10	2-5	50-90	2-4	30-90	4-5	80-90	2-4
物理科学科	教 授	3-4	70-90	3-5	60-90	3-4	60-100	3-4	60-90	3-4
	准教授	1-4	30-90	1-5	30-90	1-3	30-90	1-4	30-90	1-4
知能情報 システム学科	教 授	4-5	90-100	4-5	75-100	3-5	50-100	4-5	75-100	4-5
	准教授 講師含	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	60-100	4-5	80-100	4-5
	助 教	3-5	80-95	3-5	50-80	3-4	10-90	3-5	80-100	3-4
機能物質化学科	教 授	3-4	80-100	3-5	80-100	3-5	60-100	3-5	60-100	3-4
	准教授	3-5	70-100	2-4	50-100	2-5	30-100	3-5	60-100	3-4
	助 教	3-4	70-95	3-4	70-85	3-4	50-85	3-4	70-95	3-4
機械システム工学科	教 授	3-5	60-90	3-5	80-100	3-5	45-95	3-4	60-90	3-4
	准教授 講師含	3-5	60-90	3-5	50-90	3-5	60-100	3-4	60-90	3-4
	助 教	3-5	70-90	3-5	70-100	3-4	60-90	3-4	70-90	3-4
電気電子工学科	教 授	3-4	60-100	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	60-90	3-4
	准教授 講師含	3-5	70-100	2-5	30-95	2-5	30-100	2-4	30-9	2-4
	助 教	3-4	70-90	3-4	75-90	3-4	60-80	3-4	70-80	3
都市工学科	教 授	3-5	70-100	3-5	70-90	2-5	60-100	3-5	70-100	3-4
	准教授 講師含	3-5	70-100	2-4	50-90	2-5	60-100	2-5	70-100	3-5
	助 教	3-5	80-90	3-5	50-85	3-5	80-90	3-4	75-80	3-5

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数3ー最大数4）を表す。

**【数理科学科】**

この表から、各教員は堅実・良好な自己評価を行っていると思われ、そのことは、自己点検評価が堅実・良好との評価に耐えるものと確信する。

**【物理科学科】**

教育や研究分野領域が国際交流・社会貢献や組織運営の領域より大きくなっているが、自己努力で可能な領域と職分により可能な領域との関係でこのようになっていると思われる。したがって、この偏りは正常な範囲であると判断する。総合して的確な自己評価になっている。

**【知能情報システム学科】**

教育、研究の領域および組織運営の領域では、教授、准教授、講師は良好な目標達成率と評価点を付けているが、助教は個人により差がある。設定目標に対して十分に活動できていないと判断したと思われるが、少し過少評価ではないかと思う。国際貢献・社会貢献の領域では、全教員にわたって自己評価にバラツキがある。これは、貢献の機会があった教員と機会がなかった教員の差であると考えられる。個々の活動実績に対しては、概ね妥当な自己評価と思われる。

**【機能物質化学科】**

この表から、各教員は積極的な自己評価を行っていると思われる。

**【機械システム工学科】**

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われるが、一部教員においては本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が低いように思われる。

**【電気電子工学科】**

この表から、各教員は妥当な自己評価を行っていると思われる。

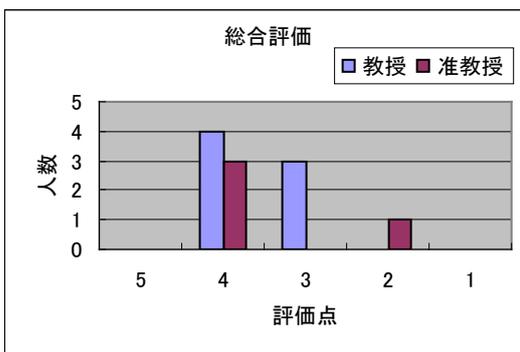
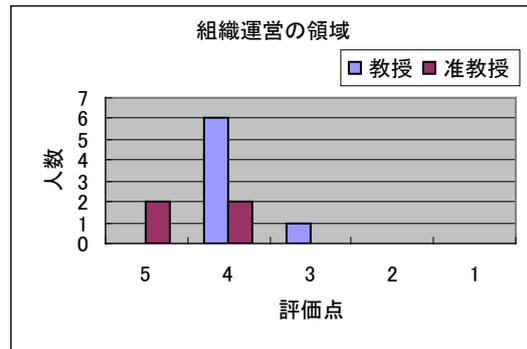
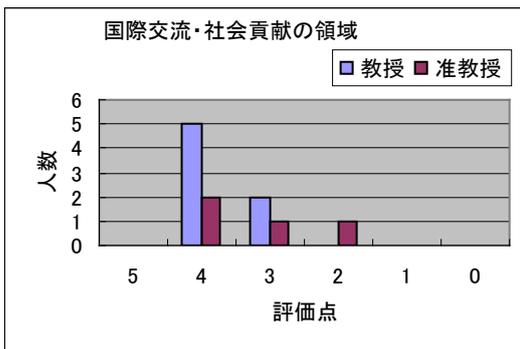
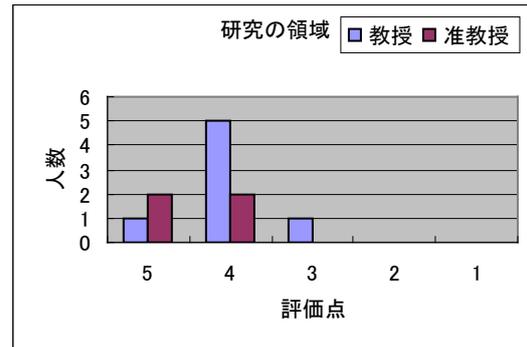
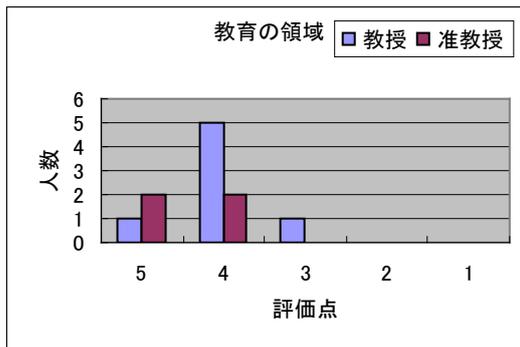
**【都市工学科】**

この表から、各教員は概ね妥当な自己評価を行っていると思われる。総合評価を「おおむね良好」とする教員が約6割を占めている。教員が個々に目標を設定して活動した結果に対する自己評価であり、この評価が次年度の改善につながることを期待する。

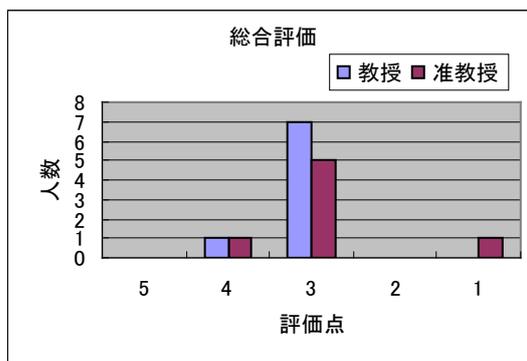
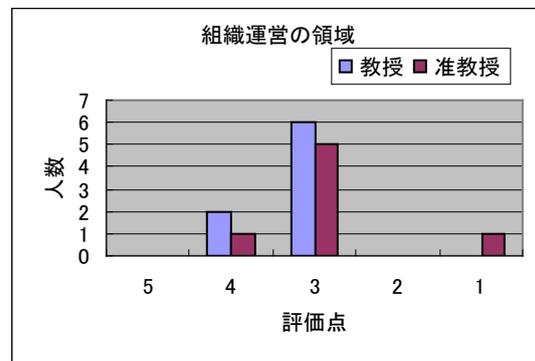
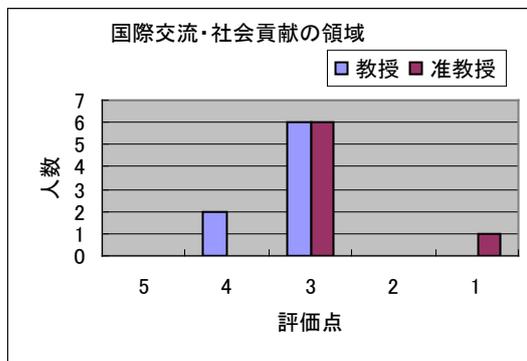
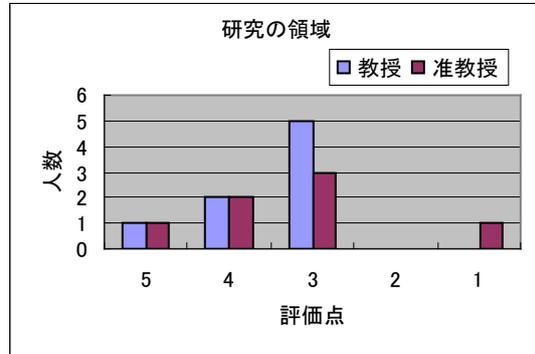
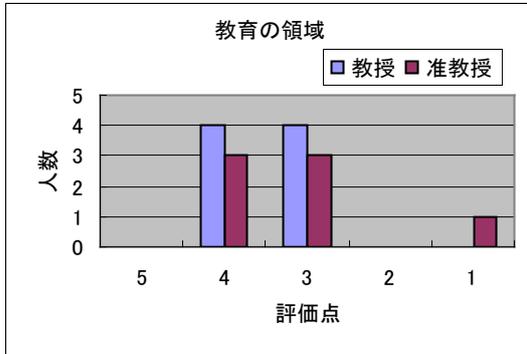
#### 4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

次ページから、学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。

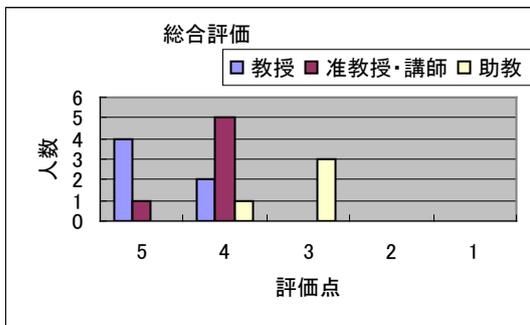
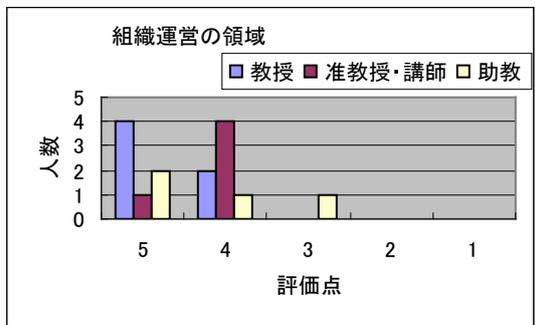
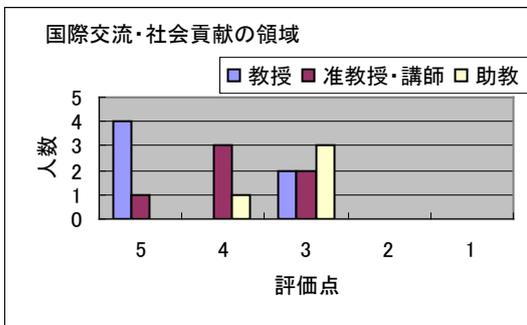
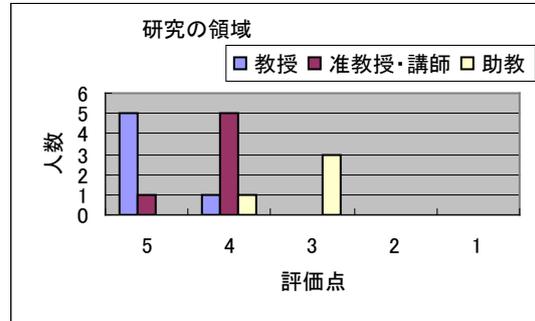
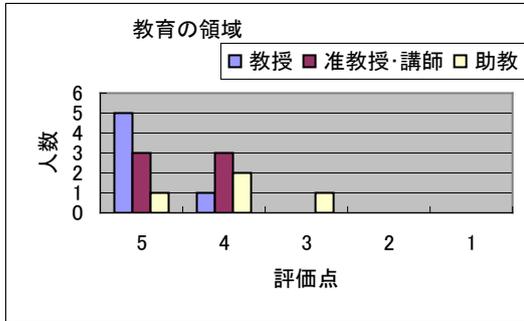
##### 【数理科学科】



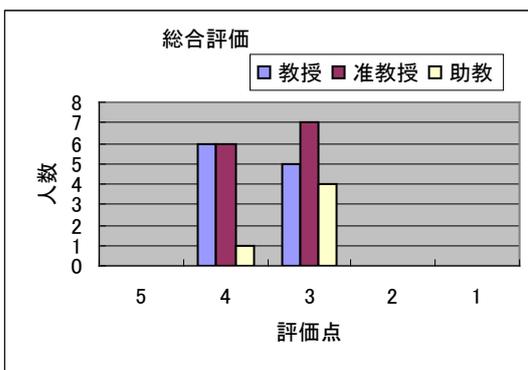
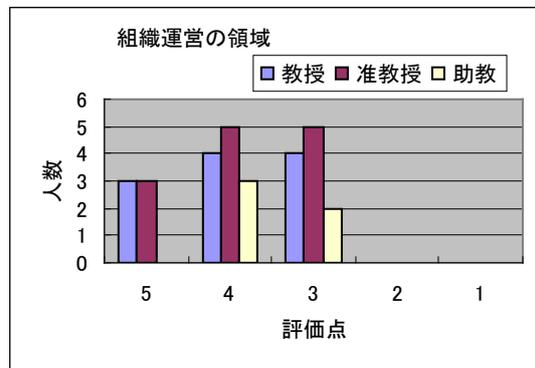
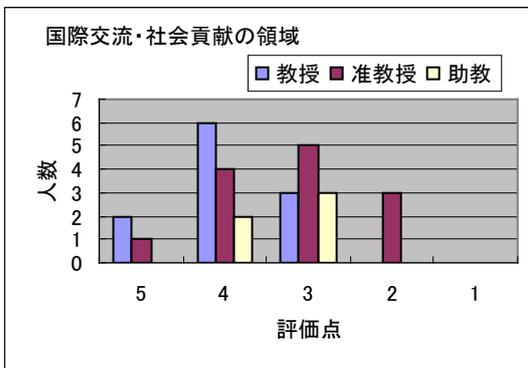
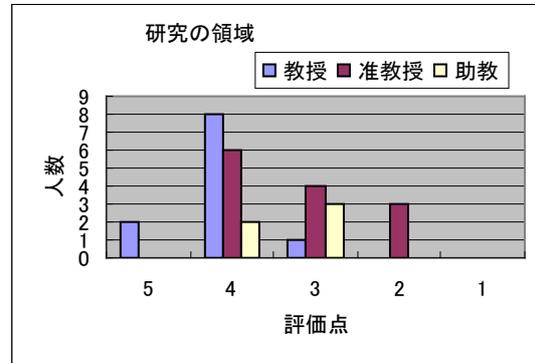
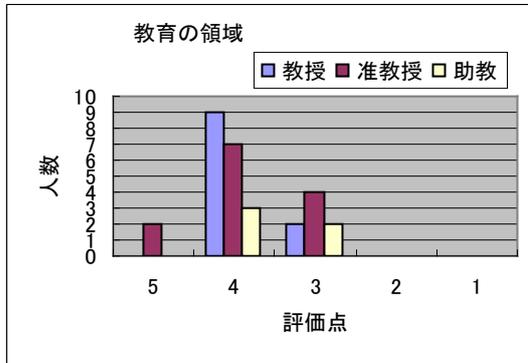
【物理科学科】



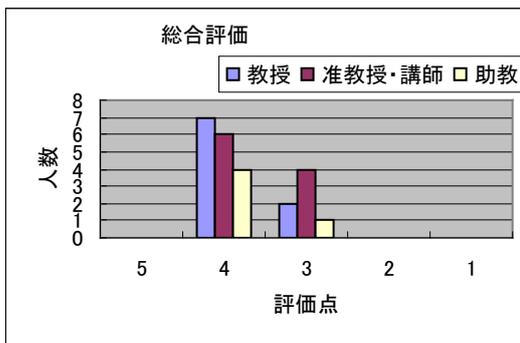
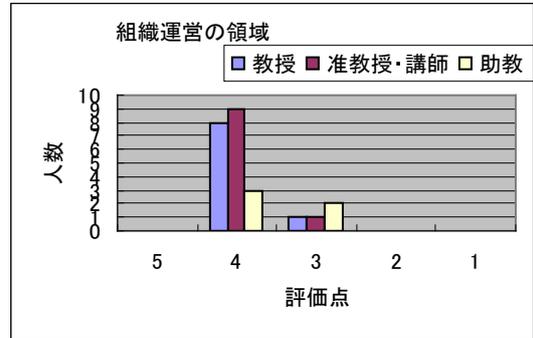
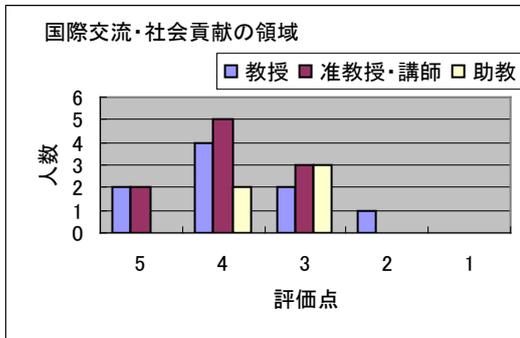
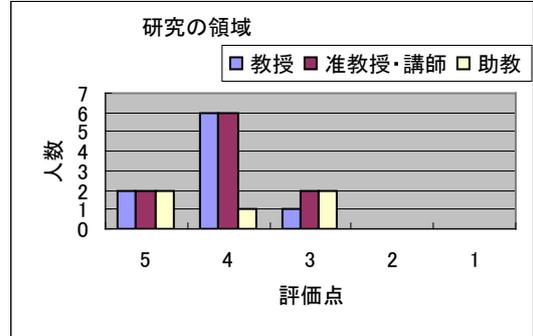
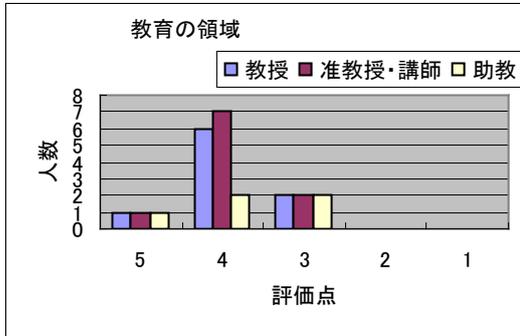
【知能情報システム学科】



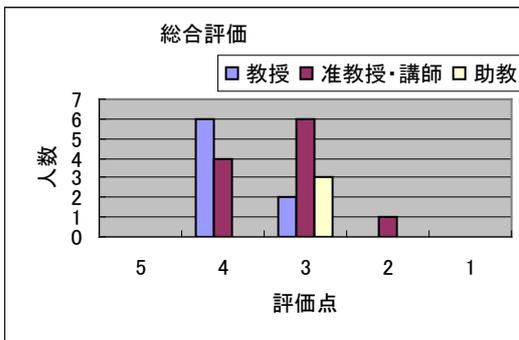
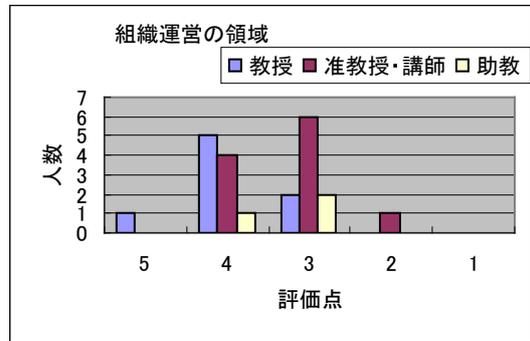
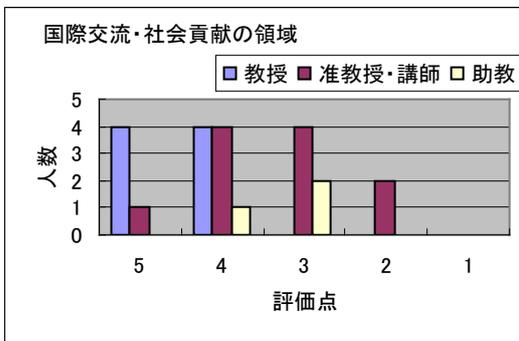
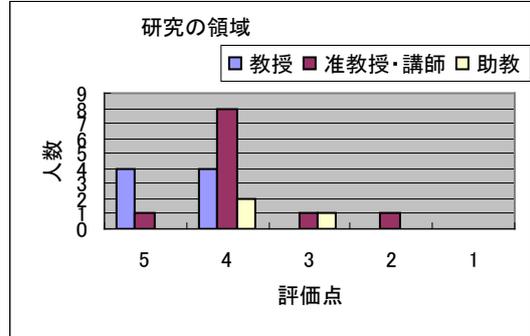
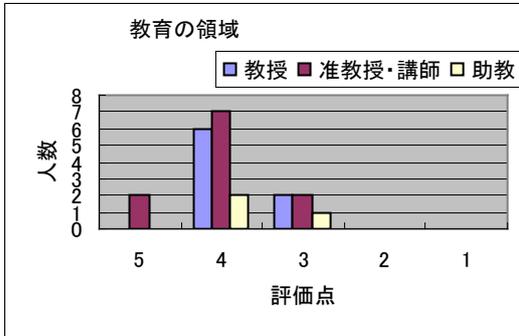
【機能物質化学科】



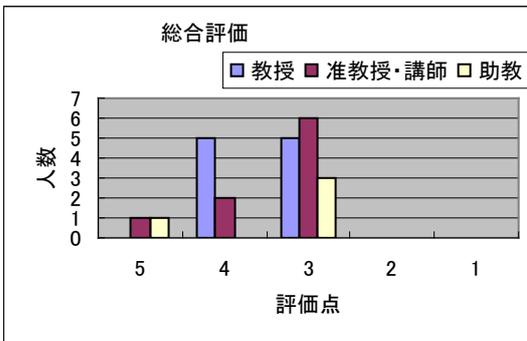
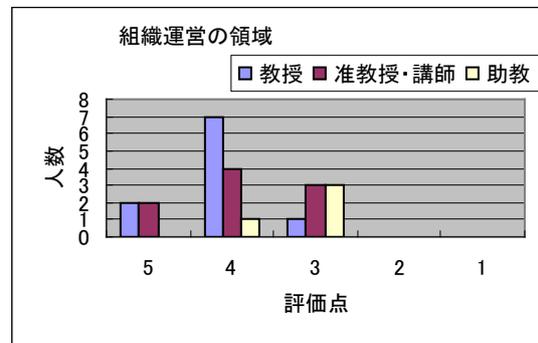
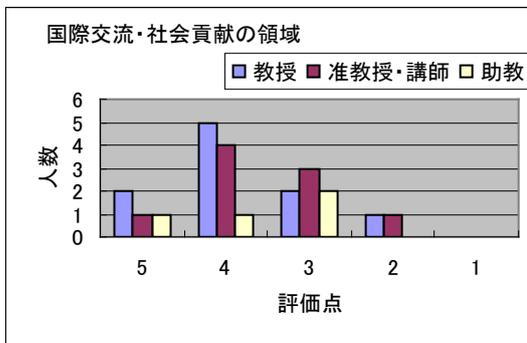
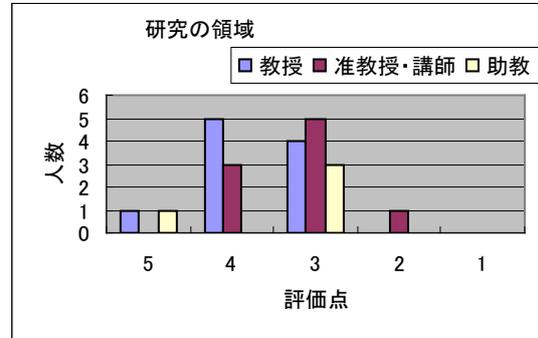
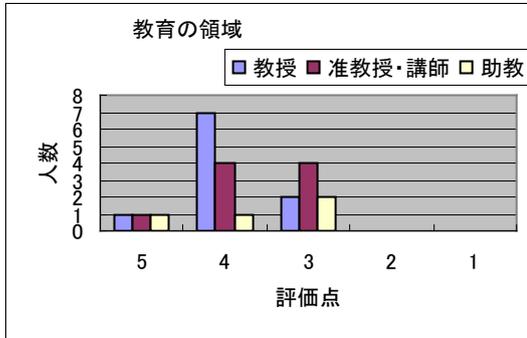
【機械システム工学科】



【電気電子工学科】



【都市工学科】



#### 4.3. 評価委員からのコメント

評価委員の試行に関するコメントを以下にまとめる。

##### 【数理科学科】

1. 教員全てが、数学の研究を数年から 10 年スパンで考え、質の高い論文を目指しており、真摯に学問と向かい合っている姿がうかがえる。さらに、教育に、国際交流に、組織運営にと、今までの数理科学科では考えられなかったくらい佐賀大学に貢献しようという姿がうかがえる。これは、なんと言っても教員全体のレベルが上がって、余裕が出てきたことによる。科研費獲得率 70%、教授全員獲得にその一端は表れている。数理科学科の展望は平成 20 事業年度時点で良好である。

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

##### 【物理科学科】

1. 教育改善に関する事項については、様々な取り組みが行われており、昨年度より今年度の方がはるかに充実してきた。学生の予習や復習を支援するために、講義と平行してのe-learningの導入・活用が図られるようになってきた。
2. 研究については、昨年と同様に英文の著名な国際的学術誌に論文を発表しており、良好な実績を残している。
3. 社会貢献の数は昨年度に比べ、増加している。素粒子物理の分野でのノーベル賞受賞によって、一般の方々が興味を持った機会をとらえて、公開講座「素粒子の世界への誘い」を主催し、100 名を超える受講生を迎えることができ、大学外に研究の意義を伝えることができた。

##### 【知能情報システム学科】

1. JABEE 認定の継続審査が実施されたため、授業改善、FD 活動の取り組みが盛んになった印象がある。
2. 共同研究、社会貢献の記述が多くなっている。各教員が意識して努力している結果だと思われる。
3. 一方では、研究活動に低調な教員が見られる。研究活動を強化するため、教育活動などとのバランスを考える必要があるかも知れない。

##### 【機能物質化学科】

1. 機能物質化学科では、教員個人がそれぞれ発揮できる領域において優れた成果を挙げており、全体的に見て各領域において学科として優れた貢献をしていると判断できる。学部教育においては JABEE の中間審査を受け、高い評価を受けた。大学院教育においては、博士後期課程において 28 名の学生を指導しており、着実な教育・研究成果を挙げている。また、エコアクション等の安全管理にも当学科は学内で先導的活動を行っている。
2. 当学科では総合分析実験センターと密接な協力関係を維持しながら教育・研究を行ってきたが、近年、同センターの大型実験機器の老朽化が目立ち、実験に支障をきたしていた。幸いに平成 20 年度補正予算で大型機器のいくつかについて更新が認められたので、

今後の教育・研究の発展に弾みがつくものと期待される。

#### 【機械システム工学科】

1. 教育について、まず学部教育に関しては、機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けており、質の高い教育が保証・維持されている。これらは、教員の日々の研鑽により導かれた結果といえる。また、大学院教育に関しては、平均受講者延べ人数が若干減っている一方で、修士指導学生数は増加している。しかし、これはただ単に年度毎の学生数変動によるものである。各教員からの報告にあるとおり、それぞれが担当する講義においては積極的かつ継続的に質の向上を目指した様々な教育改善が行なわれている。
2. 研究について、継続的に活発な論文発表を行なっており、共同研究・外部資金・奨学寄付金などの受け入れ等についても積極的に取り組まれている。これらにより、企業等が機械システム工学科の研究へ、高い関心を持っていることが分かる。
3. 社会貢献・国際交流について、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての発表も積極的に行なわれている。
4. 上記(1)～(3)と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断できる。

#### 【電気電子工学科】

1. 教育の領域に関しては職種によらず昨年度とほとんど違いはなく、「優れている」との自己評価が多いので、良好な活動が継続して実施されていると言える。
2. 研究の領域に関しては准教授、助教に自己評価の数値に改善がみられ、若い教員の間で活性化が進んできたと言える。また、「優れている」との自己評価が多いので、良好な活動と言える。
3. 国際貢献・社会貢献に関しては全般的に昨年度とほとんど違いはないが、一部の准教授に、「改善を要する」から「改善の余地がある」と自己評価に改善がみられた。平均的には「おおむね良好」～「優れている」との自己評価であるので、良好な活動と言える。
4. 組織運営に関しては全般的に昨年度とほとんど違いはないが、平均的には「おおむね良好」～「優れている」との自己評価であるので、良好な活動と言える。
5. 総合評価は全般的に昨年度とほとんど違いはないが、一部の准教授に、「改善を要する」から「改善の余地がある」と自己評価に改善がみられた。平均的には「おおむね良好」～「優れている」との自己評価であるので、良好な活動と言える。

#### 【都市工学科】

1. 教育について：
  - (1) IT ツールなど多様な手法による講義の実践が平成18年度から増えてきている。学生の学会発表と受賞数は概ね前年度と同様である。また、大学及び理工学部が主催するFD活動の参加について、昨年度より改善されてはいるが、さらなる改善の余地が残されている。

(2) 平成18年度からコース制（都市環境基盤コースと建築・都市デザインコース）を導入し、平成19年度のコース振り分けを経て、現在、卒業研究着手段階に入っており、大学院進学を控えている。学年進行に伴う大学院教育について、学科内に設けた小委員会にて最終調整を図っている段階である。

2. 研究について：

(1) 原著論文数について、ほぼ例年並みの発表数ではあるが、研究分野や研究テーマによって論文数にばらつきがある。英文原著論文数が少なく、留学生受け入れに併せた研究活動面での努力が望まれる。

(2) 科学研究費などの外部資金は年間で2500万円程度とほぼ学科予算と同程度を獲得している。今後、効率的な運用に加えて研究活動面での一層の強化が必要である。

3. 地域・国際貢献について：

(1) 社会基盤整備、環境保全等を学問体系とする学科の性格上、全教員が各種委員会や審査会などを介して地域・社会的に貢献している。また、外国からの教員・研究員・大学院生の受け入れや国際的共同研究を継続的に実施し、低平地研究センターや有明海プロジェクトチームとの協力関係の維持しつつ国際・学術交流を行っている。

## 平成21年度理工学部評価委員会委員名簿

委員長	中 島 晃	(理工学部長：平成21年9月30日まで)
委員長	林 田 行 雄	(理工学部長：平成21年10月1日から)
委員	吉 野 英 弘	(副学部長：平成21年9月30日まで)
委員	古 賀 憲 一	(副学部長：平成21年10月1日から)
委員	渡 邊 訓 甫	(副学部長)
委員	渡 孝 則	(副学部長：平成21年10月1日から)
委員	林 田 行 雄	(副学部長：平成21年9月30日まで)
委員	山 部 長兵衛	(佐賀大学評価委員)
委員	吉 野 英 弘	(佐賀大学評価委員)
委員	渡 邊 健 次	(理工学部教務委員長)
委員	三 苫 至	(数理科学科学科長)
委員	平 良 豊	(物理科学科学科長)
委員	上 原 健	(知能情報システム学科学科長)
委員	中 島 謙 一	(機能物質化学科学科長)
委員	服 部 信 祐	(機械システム工学科学科長)
委員	西 尾 光 弘	(電気電子工学科学科長)
委員	古 賀 憲 一	(都市工学科学科長：平成21年9月30日まで)
委員	石 橋 孝 治	(都市工学科学科長：平成21年10月1日から)
委員	船 久 保 公 一	(学部長指名委員：平成21年10月1日から)
委員	志 波 政 孝	(理工学部事務長)